

### 第3章 勉強のメカニズムを探ろう

僕が言う勉強とは「世の中を知ること」だった。まずは世の中にはどんな人がいて、どんな考え方をしている、どんなものを食べて、どんな家に住んでいるのか、そんな誰かの存在に興味を持つ。そして世界にはどんな文化があつて、どんな考え方があつて、どんな道具を使っているのだろうかを考えよう。自分以外の他人の生きる姿、営みを知っていくんだ。

次に君自身がやっている事を振り返ってみよう。君が他の人がやっている事を「変だ」と思うことは、逆に相手も君の事を「おかしなヤツ」だと思つてはいるはず。自分だけの世界で生きているうちは意識もしなかつたけれど、他の人と比べてみると他人との違いが見えてくる。他の人と自分は違うんだらう？どこが同じなんだらう？そんな「自分」と「他人」の交わりを知っていく事が「社会」を知る事につながる。

勉強の舞台は学校の「国語」や「数学」だけじゃない。広く世の中を知るため、「世界」という名の教科を勉強していこう！そこでは学校の教科はもちろん、友達や恋やスポーツなどからも多くの事を勉強できる。

そしてそんな「世の中を知る」勉強は、やがて生きていく手段としての道を知る事になり、やがて君だけの生きる道を知る道標になる。そしてその道を「学び」、誰かの役に立った時、

つまり「LOVE OTHERS」を実現できた時に、君は自分の足で生きていけるんだ。これまでそんな「勉強の意味」を説明してきた。勉強をする意味が分かったら、次はいよいよ「どうやって」勉強したらいいかを勉強していこう。どんなに勉強が大切だとわかって、やり方がわからなかったらどうしようもないもんね。でも勉強するからといって、いきなり漢字練習帳や計算ドリルを開かなくてもいいよ（笑）まずこの章では、勉強ってどういう仕組みになっているのかを説明しよう。その仕組みがわかれば後はやり方を知ればいい。この章ではそんな勉強の仕組み、メカニズムについて説明していこうと思う。

### 1. 一番最初に勉強することは？

君はいつから勉強を始めたんだろう？学校が始まった時から？違うよ。じゃあ幼稚園とか保育園で？それも違う。君が「世界」を知り始めたのは、まさに君がこの世界に誕生した時、そう、オギャーって生まれた時からなんだ。

君は生まれた時の事を覚えてるかい？さすがに忘れちゃったよね（笑）僕も全然覚えていない（笑）じゃあ一緒にその頃を思い出しながら、僕らがどうやって勉強してきたのかを考

えてみよう。

人はみんな母親から生まれてくる。僕は1978年の5月14日に生まれた。(大久保利通が紀尾井坂の変で暗殺されてからちようど100年後なんだ)もちろん僕はその日のことは覚えていないけれど、誕生日が来る度に「おめでとう」って言ってもらったり、プレゼントをもらったり、何度も誕生日を祝ってもらったから、この日が自分にとって大事な日だっと思うようになった。小さい頃は友達を家に呼んで、誕生日会を開いてもらったり、幼稚園や小学校では歌を歌ってもらったりもした。中学生の時には好きな女の子に「今日誕生日だよね。おめでと」って言われてトキメいたりもした(笑)だから今まで5月14日は僕にとって特別な一日だった。これからもきつとそうなるはずだ。

誕生日は自分自身で味わうというよりも、他の誰かに「おめでとう」って言われる事の方が大きな意味を持つ。最初は家族がその日を祝ってくれ、やがて君の友達や恋人、君の事を大事に思ってくれる人が祝ってくれるようになる。そして結婚してからは新しく君の家族になった人や、君の子どもが君の誕生日を祝ってくれる。

自分がこの世に誕生した事を他の人が祝ってくれる、「君が生まれてきてくれて良かった」と言ってくれる。誕生日というのは自分の存在を、自分にとっても他人にとっても改めて確

認することができる特別な日なんだ。

僕らは自分の生まれた日を大事に覚えている。自分にはまったく生まれた当時の記憶は無くても、誰かがその時の様子を話してくれるから、覚えていなくてもちゃんと知っている。

「あの日はすぐく月がきれいな夜で」

「あなたは中々出てこなかったから夜中まで頑張ったのよ」

「お父さんなんて。パジャマのままだね」

「看護婦さんが『元気な男の子ですよ』って言ってくれたの」

楽しそうに語る母、その状況にうなづく父。自分では分からなくても、覚えていなくても、自分をこの世に誕生させてくれた親がそれを教えてくれる。

誕生日は最初から特別だったんじゃない。君の事を知らない人にとっては、その日はいつもと変わらない普通の一日に過ぎない。それを君の両親が特別な日にしてくれたんだ。両親にとつてその日は、待ち望んだ末にやっと子ども顔を見れた最高にハッピーな日であり、小さい命を前にして、「この子は自分達が育てていかなければならない」と決意を固めた日でもある。その日は生まれてきた子にとつても、そしてお父さんお母さんにとつても、本当に一生で一度しかない「特別な日」だったんだ。

一人の人間を産み、育てるのはものすごく大変な事だ。赤ちゃんが生まれたらお母さんはミルクをあげ、オムツを取替え、泣いていれば抱っこしてあやす。最初は2、3時間に一度は授乳しなければならぬから、みんなほとんど寝れない日々を経験している。自分の時間なんてほとんどなくなってしまう。

お父さんも大変だ。今まで妻と2人だった家族が一人増えるという事は、支える家族が増えるという事だ。もともと働いてお金を稼がなければならなくなる。一人の子どもが大学を卒業するまでにかかる費用は、全て国公立の場合でも1345万円、私立に通ったり、塾や習い事などを増やすとなんとその額は4424万円にもなるという。教育費だけでこれだけだから、さらにその他の生活費やお小遣い、おもちゃや旅行などの費用を入れると・(泣)お父さんもお母さんも、一人の子どもが生まれると同時にとても大きな負担を強いられるんだ。「自分の時間が欲しい」「もつと自分のためにお金を使いたい」。そう思う人は残念ながら子育てには向かない。生まれてしまった子どもはリセットなんてできないから、そう思っているうちは自分の人生を楽しんだ方がいい。子どもを持つという事は、紛れも無い「他人」の人生を誕生させるといふ事だから、自分以外の他人の人生に責任を持って生きていこうという決意が無ければ子育ては難しい。

だから現実に子どもを生まない人も増えている。一人の女性が一生に産む子供の数を合計特殊出生率というんだけど、戦後間もない頃、その数値は4.5以上もあった。一人の女性が4、5人子どもを生むという計算だ。それが1975年には2くらいになり、2005年には1.26にまで減少した。今では「少子化」と言われ、社会問題にまでなっている。確かに子どもの数は減った。僕の親の世代では6人兄弟7人兄弟が当たり前だったが、僕の世代では2人兄弟や3人兄弟が普通となり、僕の子どもの代では1人っ子が多くなっている。この状況を見ると今の日本では「子どもを生まない」という選択肢が広がっていることが分かる。

じゃあなんでそこまでして子どもを生むんだろう？ 産んでしまったら大変なのはどうして人は子どもを生んで育てるのだろうか？

それはきつと「LOVE OTHERS」したいから、他人を愛したいからだと思っ。人が生きると言う事はLOVE OTHERSを実現する事だと僕は言った。一人でこの世に生まれてきた人間は、誰かの役に立ったり、誰かを感動させたりしながら、それを自分自身の喜びとして生きていく。だから自分のために他人を愛そう、僕はそう教えた。

例えば君が誰かに親切にして「ありがとう」と言われたら、きつと嬉しいだろう。小さい

頃に書いた「僕のお母さん」という作文、感動して泣く母を見て、実は自分自身が一番感動していたんじゃないか。好きな人、大切な人には愛を届けたい、だから自分にできる事で喜ばせようとする。いつか君にも好きで好きで仕方ない、本当に大切な人が現れたら、その時は思いっきりその人を喜ばせて欲しい。そしてその人が喜ぶ顔を見て、君も幸せを感じて欲しい。世の中のあらゆるものはそんなLOVE OTHERSでつながっているんだ。

君の日常もそうだ。ゲームの世界だってLOVE OTHERSで溢れている。「勇者〇〇よ。そなただけが希望の光なのじゃ。いざ魔王を倒し、この地に平和を！」なんて王様に頼まれて君は冒険の旅に出かける。困っている人々のためにコツコツレベルを上げて、魔王を倒し、空想の世界だけどその世界のみんなに感謝されてゲームが終わるから、「自分のおかげで人々が救われた」っていう満足感を得られる。テレビだって映画だってそうだ。ヒーローはみんな自分の身の危険を顧みずに、誰かのために勇敢に立ち向かっていくから感動を生むんだ。自己中（自己中心的）なヒーローはヤダよね（笑）

人はみんな自分がこの世に生まれてきた役割を探している。自分にしか出来ない仕事を見つけて誰かにしてあげようとしている。そして誰かに感謝されることでその役割を実感し、自分が存在した証を他人の心の中に刻み付けていく。それが「生きる」ってことなんだ。

みんな誰かを愛したい。その一つの形が愛する人と結婚するという事。それは今の社会の中で、好きな人とずっと一緒にいられる一番の手段だ。結婚した二人は愛の結晶として子どもを生む。そして二人は「親」として生まれた命に責任を持ち、愛し続ける。

君がこの世に生まれたのは、親が君を「生んであげた」からじゃない。何よりも君の両親が、君という一人の人間を欲していたからだ。愛したかったからだ。

「自分の子どもに自分達の人生の一部を捧げていく事によって、子どもにとってかけがえの無い存在になりたい。」

そんな両親のLOVE OTHERSな気持ちで君を誕生させた。どんなに大変な事だとしても、将来憎たらしい悪ガキになってしまうとしても(笑)、それでも君を愛したくて仕方なかったんだ。親になる人は子どもが生まれた瞬間、きつと誰もが同じ事を思うはずだ。なんだと思う？僕も自分の子が生まれた時、そう思ったよ。きつと君の両親も、友達両親も、いつか親になった時の君も同じ事を思うはずだ。それはね、

「生まれてきてくれてありがとう！」

無事に生まれてきてくれてありがとう、私達の元にやってきてくれてありがとう、私達の子どもになつてくれてありがとう、赤ちゃんが生まれた時、お父さんもお母さんもこれ以上な



い幸せを感じ、この子が元気でさえあるなら何も望まないと思っただろう。生んであげる、育ててあげるなんて気持ちじゃなく、むしろ親の方が子どもに感謝している。いつかどんなに憎たらしくなったとしても、子どもがいるおかげで親達は優しい気持ちになれるし、自分たちが死んでしまった後も未来の種を子どもに託すことが出来る。嬉しいことも楽しいことも、悲しいことも辛いことも、色々な事があるけれど、子どもと一緒に家族になる事で何十倍も何百倍もLOVE OTHERSな気持ちでいられるんだ。

だから君が誕生した日を特別にしてくれるのは、紛れも無い「他人」からのI LOVE YOUなんだ。

「私はあなたを愛しています。だからあなたという人間が生まれた日は、私にとっても本当によい日です。」「あなたが生まれてきてくれてよかった。あなたに会えてよかった。」「あなたのおかげで私の人生が変わりました。ありがとう！あなたを産んだご両親にも感謝します」「HAPPY BIRTHDAY！誕生日おめでとう！」

いろんな愛が君の元に届く。それが「誕生日」という特別な一日。君はたくさんのお愛を感じて、素直に感動すればいい。それが最初の勉強、誰かのLOVE OTHERSを知ると言う大事な勉強だ。

それを知った君は同じように他の人を愛していけばいい。そのためにもっともっと広く世の中を知るんだ。色んな事を勉強し、君なりの愛し方で誰かを喜ばせてあげよう。それが君を愛しているご両親への何よりの親孝行になると僕は思う。

LOVE OTHERSな愛情は「愛してあげたんだから自分を愛せ」とは言わない。自分が好きだから「自分のために」愛する気持ちは無償のものになる。君が電車でおばあさんに席を譲る時、代わりに何かしてくれとは頼まないだろう。デパートで泣いている子どものお母さんを一緒に探してあげる時、お札に何かを求めたりはしないだろう。人間の世の中にそんな優しいLOVE OTHERSが無くなってしまうたら、きつとこの世は終わってしまうだろう。人が自分だけを愛し、自分の親だけに愛情を尽くし、親も自分の子どもだけを可愛がるようになってしまふ世の中はきつと間違っている。

僕が生徒が卒業する時、いつもこんな事を言う。

「いつかお前が学んだ知識を活かして、誰かを心の底から感動させてごらん。きつとお前の方が泣いて喜んじゃうよ(笑)。

もしいつかお前が俺に何か恩返しをしてくれると言うなら、俺にじゃなく他の誰かに、俺がお前にしたように必死で応援してあげてくれ。俺はお前が必死に誰かのために頑張ってる、

その姿を見るだけで最高に幸せだよ。それこそ最高の恩返しだと思う。」

僕も自分の恩師達にたくさんの愛情を受けて育ててもらってきた。尊敬する先生達に追いつきたくて、追い越したくて、自分も先生になった。そして今、先生達に受けた恩を自分の生徒に返す事で先生達への恩返しをしている。先生達に教えられた事を活かして、僕もまた自分の生徒達に愛情を注いでいるんだ。僕が頑張ってる姿を見て、先生達はメチャクチャ喜んでくれる。僕もまた、自分の生徒達が社会に出て誰かに喜ばれる仕事をしているのを見ると泣けてしまう。

僕が預けた愛の種が花を咲かせ、また誰かの中に種を植える。いつかまたその種が芽を出し、花となり、他の誰かの中に種を蒔くだろう。永遠に続く愛の花を咲かせよう、そして僕も君もメチャクチャハッピーになれる。それが人の生き方だ。まずはそれを知る事から勉強を始めよう。

もつと誰かの役に立ちたい、そう思えば自然と「まだまだこれじゃあ誰も喜ばない。もつと勉強しなくちゃ！」って考えるようになる。そこから知識の吸収、生きていくための方法学習が始まる。そうやって勉強して手に入れたものは少しずつ君の体に染み込んで、いつかきつと君が誰かを愛する時に役に立つだろう。

勉強をする動機を手に入れる、それが最初に君が勉強した事だったんだ。もし忘れちゃってたらもう一度思い出してな！

**君の最初の勉強は、「君を愛する他人がいる」と言う事を知る事だ。人の愛を知り、君も誰かを愛していこう。そのために必要な知識は勉強していけばいい。**

## 2. 生きていくために猛勉強

君はいつこの世に存在したか知ってるかい？

君の命が生まれ、心臓がトクントクンと鼓動を始めたのは、君の誕生日よりもずっと前だ。

君がオギヤ―って泣きながらお母さんのお腹から出てくる10ヶ月も前に、君は既にこの世に存在していた。

人間はみんな卵の状態から発生し、細胞分裂を繰り返して「人」の姿になっていく。妊娠間もない頃はわずか1ミリしかない卵（この頃はまだ「胎芽」と言う）が、7、8週間を過ぎると頭と体に分かれ「胎児」になっていく。そして手足が出来て、脳が出来て、内臓が出来上がっていく。そして出産直前の10ヶ月ごろには50センチ、約3キロほどに成長するんだ。10ヶ月で約500倍の大きさになったんだね（すごい！）。

母親のお腹の中は程よい温度の羊水に守られ、必要な酸素や栄養は母親とつながっている。その緒から全部吸収することができる。だから君は何の不安もなく、すくすくとお腹の中で暮らしていた。外の世界ではお母さんがつわりで苦しかったり、そんなお母さんを周りの人が気遣ったりしながら君と言う命をみんな大事に守っていた。

そうやって大きく成長した君はある時突然、お腹の外に放り出されてしまう。それが出産だ。羊水は破られ、大事な補給パイプだったへその緒も切られてしまう。赤ちゃんは生まれたその瞬間に「世界」を知る。今までいたお母さんのお腹の中とは違う外の世界、君はまず驚いたに違いない。



**人は皆、10ヶ月もの間、母親のお腹の中で大事に守られて、世の中に出る時を待つ。**

(え？何？ビックリ！どうすればいいの？エーッ！！！！！)

みんなもう忘れてるけど、きつとそんなことを思ったはずだ(笑)

生まれてきた赤ちゃんは、右も左も分らない。赤ちゃんにとつてこの世界は、とても厳しい場所だ。寒ければ死んでしまう。おっぱいをもたえなければ死んでしまう。呼吸が出来なければ死んでしまう。至るところに死の危険が潜んでいる。でもそこで生きていかなければならない。これからは「自分で」生きていかなければならないんだ。もちろんいきなり最初から全部自分で出来るわけではないから、周りの人に助けをもらいながら、教えてもらいながら、少しずつ自立していくんだ。

赤ちゃんは生まれた時、大声をあげて泣くよね。なんで分かるかな？

僕はつい最近、二人目の娘の出産に立ち会ったんだけど、その時お医者さんが教えてくれた。その答えは意外なところにあっただ。

赤ちゃんが最初に泣くのは、自分で呼吸するためなんだって。大きな声で泣くと、思いっきり息を吐くから苦しくなるでしょ。だから嫌でも息を吸う。そしてまた泣きながら息を吐く、吸う、吐く。ほーら呼吸が出来た。これで一つ生きていくための手段を手に入れた。生



## 生まれた瞬間に勉強が始まる

まれてすぐに泣かない子は、お医者さんにお尻をペンペン叩かれるんだって。そうやって無理矢理泣かされて呼吸の方法を知る。赤ちゃんは生まれたばかりでも猛勉強してるんだ。今ではみんな普通に呼吸しているけど、最初はそれすら勉強だった。

勉強とは生きる方法を知ること。勉強しないと死んじゃうんだぞ。今、勉強が嫌いと言ってる人も、生まれた時は必死で勉強していたはずだ。息を吸ったり吐いたりするために無我夢中で泣いただろうし、栄養を吸収するためにまだよく見えない目で必死におっぱいを探して飲んでいたはずだ。生まれた頃の赤ちゃんに勉強の嫌いななんて一人もいなかった(笑)それがいつの頃からか勉強が嫌いになってしまった。不思議だね。

もうちよつと赤ちゃんの成長の様子をみて考えよう。赤ちゃんは呼吸やおっぱいを飲むなど、生きていくための基本的な事を勉強していくことから始まる。そうすることで一個ずつ死の危険を回避していき、やがて誰の助けも借りずに生きていける大人になっていく。最初のうちには将来身を立って暮らしていくために、とか安定した職業に就くために、なんて考え

ずに、もう何が何でも生き延びてやる！っていう生きる「本能」を身に付けていく事が勉強なんだ。

赤ちゃんにとっての生きる方法とは「泣く」こと。生まれてきた赤ちゃんは、まだまだ自分では何も出来ない。だから泣いて助けを求める。最初は呼吸をするために泣いていたけど、生まれてしばらくすると自然に呼吸は出来るから、もう泣く必要はない。でも、赤ちゃんが泣いていると大人は「何かあったのかな」と様子を気にしてくれる。だから赤ちゃんは「合図」として泣くことを知る。お腹が減ったら泣く。お尻がウンチで気持ち悪かったら泣く。赤ちゃんは泣くことで意思表示をし、相手を立派に動かしているんだ（大したもんだ）。

泣くということは大きくなった君にとっても「何かあった」ことを知らせる合図になっている。君は、友達や家族が泣いていたら「どうしたの？大丈夫？」と心配するよね。成長するにつれて段々泣かなくなるけど、本当に辛いとき、悲しいとき、涙が出る。逆に本当にうれしいとき、感動したときも涙が出る。泣くことで自分の今の感情を確認することができる。また、相手にも何らかのサインを出す事が出来る。もう赤ちゃんじゃないからお腹が減ったり、うんちをもらしたからという理由で泣くことはないけれど「泣く」という方法は人間にとって大事な生きる手段なんだね。それを0歳の赤ん坊は自然に勉強する。



最近ニュースで、赤ちゃんが生後まもなく捨てられてしまうといった事件を耳にする。駅のトイレで、お寺の門前で、路上で。きっと生まれたばかりの赤ちゃんは泣いていたんだろう。泣いて泣いて必死に助けを求めていたんだろう。自分ひとりでは生きていけないから、「お母さん助けて」「誰か助けて」って大声をあげて泣いていたはずだ。でも残念ながらその泣き声は誰にも届かなかった。僕はその状況が想像できるから、ものすごく悲しくなる。そんなニュースを聞く度に僕は泣いてしまう。自分の娘と同じくらいの年の子が、捨てられたり、虐待されたり、かわいそうな状況にあるのを知ると、いてもたってもいられなくなる。その子達の泣いている姿、心のS・O・Sが僕には届く。確かに届いている。だからと言って今はまだ何も出来ない無力な自分だけど、絶対に助けてやろうっていう想いで僕はいる。間違っても「うちの子じゃないから良かった」なんて思わない。

泣くことを勉強するのって、ものすごく大事な事なんだ。虐待された子は、大きなショックを受けた子は泣く事ができなくなってしまうという。心に鍵をかけて人としての感情を持たなくなってしまうんだ。泣く事なんて、そんなことくらい簡単なことだよって馬鹿にしていると、そんなことすらわからなくなってしまうぞ。現に今、君は誰かの涙に気付いているか？側にいる人でも遠く離れた人でも、泣いている子に耳を傾けているかい？

誰かの鳴き声に鈍感になっていく社会は絶対によくはない。今もこの世の中では泣いている人がいる。その泣き声に敏感でいたいね。

もうひとつ、赤ちゃんには取って置ききの生きる方法がある。それは「笑う」ということ。今、31歳の僕がかわいこぶりつ子して笑ってみても、誰も何もしてくれないが（泣）、赤ちゃんはただでさえ可愛いくせに、笑うことによつてより一層かわいさをUPし、みんなに優しくしてもらっているんだ（赤ちゃん、恐るべし）。

でも本当に赤ちゃんはかわいいよね。小さくて丸くて、仕草もたどたどしくて、見ている人が「かわいい」という気持ちになるオーラを発している（笑）でもこれは人間に限らず、どの動物も同じなんだ。犬の赤ちゃん、ペンギンの赤ちゃん、ライオンの赤ちゃん、どの動物の赤ちゃんでもみんなかわいいと思わないか？どこかで聞いた話だけど、動物は可愛いものを見ると、「自分が守らなければ」という心理が働いて優しくなるという習性があるらしい。

昔、僕は団地に住んでいて、家で動物を飼うことは出来なかったんだけど、捨て猫を見つけると段ボール箱を探ってきて、給食の残りを揚げたり、牛乳を持っていったりしたもんだ。自分より小さい猫がかわいかったから、守ってやりたかったんだね。

そんなからくりをもちろん知るはずのない赤ちゃんは自然と生きる手段を勉強していく。生物には本能というものがあつて、無理矢理勉強しなくても、生きるための最低限の能力は自然と出来るようになる。君は「ウンチをする」ことを誰かに教えてもらったことはないだろう。それは他の動物と同じように、本能で自然と出来るようになる。でも、野生動物と同じようにどこにでもウンチを垂れ流していたら、恐らく「人間」としては生きていけない。最初はオムツをして動物と同じように垂れ流しながらも（食事中の人ゴメン）、段々とトイレでするということを教えられ、勉強していく。

赤ちゃんは親、親戚、地域の人、と色々な人に世話され教えられながら「子ども」になつていく。生まれてきたばかりの赤ん坊は、まだこの世の中のことを何も知らない。火を触つたらやけどすることも、水の中では呼吸できないことも、何も知らないから一人では生きていけない。この世界の中で生きていくために、基本的なことは絶対に知っておかないといけないよね。それが「世界を知る」と言う本格的な勉強だ。次はそんな勉強のやり方についてみていこう。

生まれた瞬間に勉強が始まる。赤ちゃんは猛勉強して生きるための基本動作を身に付ける。そして基本が出来た人は「世界を知る」勉強に進んでいくんだ。

### 3. 糞（しつけ）

人間が生きていくために必要な動作、ごはんを食べて栄養を吸収し、うんちやおしっこをして不要なものを外へ出す。昼間は体を動かしてエネルギーを消費し、夜になったら寝てエネルギーを回復する。せきをして病原菌を外に追い出したり、鼻水と一緒にウイルスを流し出したり、病気を経験する事で体に免疫をつけて強くする。そんな動作を身につけて人はいよいよ「世界を知る」勉強へと進んでいく。

赤ちゃんの時程ではないけれど、子どもだって回りは危険がいつぱいだ。道路に出れば車が猛スピードで走ってるし、川や海でおぼれてしまう事もある。また、知らない人に誘拐されたり、事件に巻き込まれたりする危険もある。世の中で生きていくためにはそんな「ルール」を知らないといけないんだ。

赤ちゃんがお尻を叩かれて呼吸する事を学ぶように、それが生きていくために絶対必要なものであれば大人たちは無理矢理にでも勉強させる。そうやって自分の命を脅かすものを教え込もうとするんだ。それが躰（しつけ）というものだ。

「大辞林」と言う辞書に、躰はこのように説明されている。

**躰（しつけ）**・・・〔躰〕はからだを美しく飾る意の国字）子供などに礼儀作法を教える身につけさせること。また、身についた礼儀作法。

またインターネットの百科事典であるウィキペディアにはこのようにある。

躰（しつけ）・・・人間または家畜の子供または大人が、人間社会・集団の規範、規律や礼儀作法など慣習に合った立ち振る舞い（規範の内面化）ができるように、訓練すること。

子どもが人間社会で生きていくためには次の勉強が必要になる。

1. 生きていく基本動作を身につける・・・呼吸や食事、排泄などの基本動作を知る
2. 人間社会のルールや危険を知る・・・安全なものと危険なものを区別する
3. 人の気持ちを考える・・・人の存在を意識し、人の痛みを想像できるようにする

一つ目。まずは赤ちゃんのときに身に付けた基本動作を「人間として」の方法に応用させる。トイレのトレーニングをしたり、鼻をティッシュでかんだり、お箸やスプーン、フォークを使って食べたりする練習をする。

二つ目。次に身の回りの安全なものや危険なものを区別して教えられる。世の中には物理的に危険な物がいっぱいある。正しい使い方をすれば便利な道具も、使い方を間違えると命を奪うことさえある。だから親は子どもにこんな注意をする。

- ・火に触ってはいけない
- ・道路に飛び出してはいけない
- ・川で遊んではいけない
- ・刃物を触ってはいけない
- ・階段を登ってはいけない

この他にもまだまだ危ないことはたくさんある(泣)。うんざりしちゃう位たくさん事をしつけられて、子どもは危険を回避する。君も今までたくさん注意されて、怒られてきたはずだ。もしかしたら今も(笑)。でもそのおかげで今君は無事に暮らすことが出来ている。

大人が子どもに何かを教える場合、子どもがまだ小さいうちはその仕組みを理解できないから、大人は危険なものから遠ざけようとする。「近寄ると痛いよ!」「お化けが出るよ!」「虫が来るよ!」と、こどもが怖がつて近寄らないようにマイナスの先入観を植え付ける。

でも、子どもが成長して物事を理解できるようになると、なぜそれが危ないのか、危なくないようにするにはどうしたらいいのかという「仕組み」を教えていくんだ。さっきの例で言うと「仕組み」の部分はこんな感じになる。

- ・ 火に触ってはいけない ↓ 正しい火の使い方教える
- ・ 道路に飛び出してはいけない ↓ 正しい道の歩き方を教える
- ・ 川で遊んではいけない ↓ 泳ぎ方と水難事故の危険性を教える
- ・ 刃物を触ってはいけない ↓ 正しい刃物の使い方教える
- ・ 階段を登ってはいけない ↓ 正しい登り方と高いところの危険性を教える

今君は部屋の中で花火をしようとは思わないよね(笑) それは火の危険性を知っていて、花

火の正しい遊び方を知っているからだ。

こうして子どもは社会のルールを知っていく。火に触ってはいけないって知っていればストープも触っちゃいけないし、ガスコンロも触っちゃいけない事がわかる。「仕組み」が分かれればそれを応用させていくことができるんだね。これこそまさに勉強だ。

そして三つ目。子どもは少しずつ人間社会に不可欠な要素である「人」というものを知る。親と自分は違う、友達と自分は違う、他人と自分は違うということを知り、自分の周りにはたくさんの方がいるということ、世の中にはもっともたくさん色んな人がいるという事を知る。自分以外の「他人」という存在に気付くことは、「自分」を知るためのものすごく重要な事だ。人は自分と他人を比べて、自分に持っていないものをもっている人に憧れ、近づこうとする。他人がいるから愛そうとする。他人が困っていたら助けようとする。他者を知らずして自分によって自分がより人間らしくなっていく。呼吸やトイレを知ったり危険を知ったりすることが最低限の技術だとすれば、他人の存在を知る事は最低限の心構えのようなものだ。どんなに技術が素晴らしくても、心が腐っていても、LOVE OTHERSは実現できないように、どんなにテストの点数が良くても他人の気持ちを思いやれない人は、人間としては失格になってしまう。



教育には家庭教育、学校教育（広く世界を知る勉強を学校で行う）、社会教育（より大きな世界を学校以外の場で学ぶ）という3つのステージがある。最初は家庭で人間としての基本を勉強し、次に学校で社会の中で生きていくための勉強をし、最後は社会の中で自分の学びたいものを選んで勉強する。それぞれのステージで学ぶ内容も学び方も違う。

最初の家庭教育では善悪の判断や、人の気持ちを思いやることなどを勉強するから、ある程度の強制力が必要となる。

人を叩いたらダメ。人に意地悪したらダメ。人の嫌がる事をしたらダメ。

ここでもたくさんの「ダメ出し」によって子供達は人付き合いの方法を知っていく。子ども達は、人には親切に「しななければならない」と言う価値観を叩き込まれて一人前の人になっていく。家庭教育で親が子どもに絶対教えなければならないのは、**自分が嫌な事を人にやっ**てはいけないという事だ。その仕組みを説明するところなる。

・君が誰かに嫌な事をする

←

・その人は君の事が嫌いになる

←

・その人は君と接したくなくなる

←

・その人は君が喜ぶ事をしようとは思わなくなる

←

・その人は君と協力して生きていこうとは思わなくなる

こんな悪循環になる。だから人には親切にしておいた方がいい。そうすれば悪循環はこう変わる。

・君が誰かに親切にする

←

・その人は君の事を好きになる

←

・その人は君と一緒にいたくなる

←

・その人は君の喜ぶ事をしてあげたくなる

←

・その人は君と協力して生きていこうと思うようになる  
どっちがいい？（笑）まだ子どもはそんな仕組みの事は分からない。だから親が強制的に良い方を教えるんだ。

国語でも数学でも英語でも、どんな勉強でも基本の部分は徹底的にやらなければならぬ。たとえそれが強制的であったとしても。掛け算を嫌がって覚えなければ、きつと数学の楽しさにまではたどり着けない。辞書を引いて言葉の意味を蓄える事をしなければ、きつと本を読む気にはならないだろう。遊びだつてそうだ。僕は始めてスノーボードをやった時、ゲレンデで転びまくつて鼻血まで出して（泣）「もう2度とやるもんか！」つて思ったけど、その後何回もゲレンデに行つて、同じように転びながら基本的なターンができるようになったとき初めてその面白さに気付いた。

大人になつてからだとか何かの道で生きていく事ができている。だから無理して新しい事を学ばなくても、という気が働いてしまう。でも子どもはまだ何にもできない。だから小さいうちはどの道に進んでも基礎になるような基本の仕組みを徹底的に勉強して、土台を作る必要があるんだ。

勉強をする方法の一つのヒントは「基礎は徹底的にやる」ってことだ。

数学やるんだったら計算を徹底的にやる。数学を使って大学受験をして難しい問題を解いている生徒は計算で間違える事がほとんどない。逆に数学が苦手な子はポロポロ計算ミスで間違えている。

英語もそう。単語をちゃんと覚えていない人は長文読解なんかほとんど勘で読んてる(泣)  
文法でも基本の b e 動詞や一般動詞の勉強をおろそかにしている人は、文法が段々難しくなっていくと意味がちんぷんかんぷんになる(泣)

「勉強は積み重ねが大事」と言うが実はそれは当たっている。基本があって初めて応用できるんだから、基本は何が何でも叩き込まなければならぬ。だからもしも君が、今やつている勉強が分からなくなっているんだったら、まずはその勉強の基本に戻ろう。

僕は高2まで英語が大の苦手だった。「Junior」の発音を「じゅにおあ」と言ったり、「Do you Tom? (あなたはトムしますか?)」という英文を作ったり、とにかく英語の「え」の字も知らなかった(泣)

「このままじゃ大学受験は諦める」とまで言われた僕が始めた英語の勉強は、中学生の教科書をもう一度読み直すことだった。さすがに高校生が中学の教科書をやるんだから読めて当

然、となめてかかった僕は痛い目にあった。

まずアルファベット・・・これはさすがに書けるでしょ。次にBe動詞、これもまあまあ。でも一般動詞になり、DoとD o e sの違いが分からない(泣) こうして僕は高2の冬、中一の2学期から英語の勉強をやり直した。

でも、簡単な教科書でその仕組みをちゃんと知っていく勉強は楽しかった。昔はよく分らなかった事が今なら結構分かる。一日ひたすら教科書とにらめっこしてあつという間に7・8時間が過ぎる、そんな生活。中1の教科書は1週間で、中2の教科書は2週間で終わった。中3の教科書は1ヶ月かかったものの、僕は中学の勉強が高2の1月にやつと終わった(笑) そこからがすごかった。2月から高校生の英語を勉強し始めたんだけど、文法書に書いてある説明がものすごく分かる！前はちんぷんかんぷんだった意味が全部「なるほどね！」って頭に入っていく。この時僕の英語の勉強時間は一日10時間を超えていた。英語が面白くて面白くてついつい何時間も英語の教科書を読んでいた。

英語は一番キライな科目から、一番好きな科目に変わっていた。成績もみるみる上がり、高1の時、後ろか10番くらいだった成績が高3の時には学年2位にまで上がった。

まさにあの時、僕が自分で英語の基礎を「しつけ」たから僕は変わったんだ。どんな勉強

も基礎をしっかりと入れることはなくてはならない要素なんだ。基礎とは「仕組み」のこと。1+1はなんで2なのか、Be動詞って何なのか、何で人に嘘をついてはいけないのか、など一つ一つの「仕組み」を自分の頭で理解し、自分の言葉で説明できるようにする。大抵の人が勉強を「覚えていく」のであって、「分かっただけ」はいない。答えを覚えることよりも、その事柄を自分で説明できるようにしよう。そうすれば君の勉強はもつともつと発展する。

英語の勉強をちゃんと仕組みから勉強しなおした僕は、その6年後、英語の先生になった。英語がキライで仕方がなかったあの時、自分が理解して納得するために考えた「仕組み」を、今は生徒達に教えている。仕組みを知る事で生徒達を躱け、また英語が好きな生徒を生み出している。

**勉強の基本はその仕組みを躱けられることから始まる。**

**基礎の勉強なくして本当の理解はありえない。**

誰も躓けてくれなかったら、自分で自分を躓けよう！

#### 4. 好奇心

勉強が必要な事も、強制的にやらされる理由もわかってきたと思う。じゃあ今日から勉強しよう！勉強大好き！になるか？いや、そうはならない（笑）まだ、腑に落ちない。そんな所だろう。じゃあどうやったたら勉強が好きになるのか、その方法を教えよう。

生きていくためには世の中のルールや人付き合いの方法を広く学ぶ必要があった。子どものうちは何からやっつけていいのかわからないから、親や先生が強制的に必要なものを選んで教えている。それが「躓」だったね。

でも一から十まで全部を躓で教えるなんて事はできない。お父さんやお母さんが24時間君をびったりガードして、「これはダメ」「あれはダメ」なんてやったら気持ち悪いだろう（笑）彼女とのデートにお母さんを連れてく男の子や、会社を休む時親に電話してもらおう社員がいたりするらしいから、実際にそんな親も今はいるみたいだけど（泣）

人間には最大の武器があったのを覚えているかい？他の動物にはない大きな武器があった。前に説明したね。それは「好奇心」という本能だ。

僕達は元々世の中に興味津々、何でも知りたくて仕方がないんだ。それは本能だから僕にも君にもある。チーターがみんな足が速いように、鳥がみんな飛べるように、人間には好奇心という本能が備わっている。君もそうだろ？好きな子や好きな芸能人、スポーツ選手のことをもっと知りたい、どうやったらスポーツがうまくなるのか知りたい、どうやったらかっこよくなれるのか、可愛くなれるのか、色んな事を知りたいだろう？

この好奇心を生かして勉強すればいい。君が体験して興味を持った事をとことん追及していけばいいんだ。芸能人にハマってもいい。その芸能人と出会った時にどんな話をするだろう？「いつも見えます、ファンです。」だけか？そんなんじや向こうに覚えてなんてもらえない。その人が好きなものを自分でも試してみたり、その人の故郷を訪れてみたり、色んな事を勉強すれば「○○さんは鹿児島出身なんですよ。私もこの前行ってきました。桜島の景色は雄大ですよ。」ってな感じでカッコいい事言えるんだ。有名なデザイナーに会っても、ファッションの事がよく分からないで「着てます！」っていうよりも、「この服のこういうところが気に入っています」と詳しい方が気に入られるに決まってる。



好きこそものの上手なれ。ということわざがあるように、君はその好奇心をフルに活かして勉強していけばいい。好きなものをただやっているだけじゃなくて、その魅力を分析し、人に語れるように高めていけ。知れば知るほど「おもしろえ！」ってなっていたら、きっと勉強にハマッテルんだ。

そしてそんな風に勉強にはまっていたら、いつか必ず国語や算数といった「基礎」の勉強にぶつかるはずだ。もし君がどうしても学校の勉強が嫌いなら、それを勉強するのは本当に必要性に気付いてからだっていい。(でも、このからくり気付いたら先に基礎をやつてね。その方が大分時間を短縮できるから)

好奇心は「知りたい」という欲求だから、知っていくに連れ、つまり年を取り、大人になつていくに連れて減退してしまう。(例外的な人もいるけど)それは既に知ってしまったり、知る必要がなくなつてしまつたりするからだ。するとどんどん好奇心はなくなつていき、何を見ても聞いてもワクワクしなくなつてしまう。そうなつてしまう前に「勉強する」習慣を身に付けたい。

大人になると好奇心が少なくなるなら、逆に言えば赤ちゃんや子どもというのは好奇心がメチャクチャ強いって事だ。確かに子どもは何でもかんでも「触ってみたい」「やってみてみたい」

という好奇心MAXな状態だから、それを抑えるために大人は「あれはダメ」「これはダメ」と注意している。彼らは躱けられて嫌々勉強しているんじゃないかと、むしろ勉強を抑えられているんだね。

僕の娘は今、2歳になる。言葉も大分覚えて、自己主張をするようになった。彼女は最近いろんなことに興味を持っていて、大人の真似をしたがる。うまくいかない様子を見かねて「やってあげようか？」と言おうものなら、「ワタシガヤルノ！」と言って、何でも自分でやりたがる。そして失敗する(泣)

でも、これも大事な勉強なんだ。自分で実際やってみて、出来なかったら考える。「どうやったらうまくいくのかな？」試行錯誤してあれこれやってみて、それでも出来なかったら、大人に「こうしたら出来るよ」って教えられる。そして一度成功したら、大人のやり方を真似して何度も自分でやってみる。すると段々自分の力でできるようになっていく。これが本当の勉強だ。

僕が親になって一番注意しているのは、何でもかんでも「ダメ」って言わないことだ。子どもに何かやらせると、ほとんどと言っていいほど失敗する。失敗しない子なんていない。ご飯を自分で食べさせる、こぼす、落とす、服を汚す。皿を運ばせる、落



とす。外を歩かせる、転ぶ。失敗する度に僕達親はフォローしていくんだけど、これが正直かなりめんどくさい(泣)。子どもにやらせる代わりに自分でやってしまうか、助けてあげた方が全然楽なんだ。でもそれを面倒くさがって大人が代わりにやってしまうと、子どもはいつまでもできるようにはならない。

子どもは何でも自分でやりたがる。大人の真似をしたがる。これってメチャクチャ勉強好きってことじゃないか？子どもに失敗を経験させ、勉強してもらうために、よっぽど危ない時以外は「躓をしない」というのも立派な教育なんだね。

今の世の中は子どもが大人になっても「躓」をされているような気がする。あれはダメ、これはダメ、と言われてみんないい子になってしまいうから、自分で試して失敗してみようという子がいなくなる。授業でも小学校くらいは「はい！はい！」って元氣よく自分の答えを発表して間違えてもまた考え直すけど、段々人前で間違えるのが恥ずかしくなって答えを発表しなくなる。そして誰かの答えを写して分かったつもりになってしまう。

だからいつまでもマニュアルに頼る大人が出来上がる。そんな大人は自分から勉強しよう、知ろうという気持ちがなくなってしまうから、言われる事は忠実にこなすけど、何か新しいものを創造する力はない。そんな人間ばかりになってしまう。

国立青少年教育振興機構というところの調査で全国の20代から60代の男女5千人、小中高生1万1千人にアンケートをとったところ、川や海で遊んだり、友達と相撲をしたなど、外遊びの経験が多い人の方が1ヶ月に読む本の量や、大学進学率の点で勝っていることが分かった。そりやそうだ。家の中で誰かに「作られた」世界で遊んでも、新しく知る事なんて何もない。その答えは全部攻略本に載っている。でも外にはたくさんなぜ？何？がある。調べても答えが出ないものが多い。だからこそ、人の好奇心はパワーアップしていくんだ。もっと知りたい、だったらもっと勉強しなきゃ。それが普通の人間だろう。

「子どもの好奇心を育ててください。」こんなこと言ったら、「どういふ場所で遊ぶと頭が良くなりますか？」「どんな環境が優秀な子を育てますか？」というアホな質問が飛んでくる。(泣)こんな質問をする親は、既にマニユアルなしでは生きていけなくなってしまう。どっかの専門家が言う事よりも、自分が今まで育ってきて良かったと思う部分や失敗した部分を踏まえながら育てるのが一番いい教育に決まっているのに。専門家の成功例にみんなが従うから、均一で面白みの無い人間ばかりが大量生産される、今はそんな社会になりつつある。

本当に出来る人を育てたかったら、親が子どもに思いっきりやらせて、失敗させて、本当

に危ないところだけをフォローしてあげればいい。そんな家庭が一番好奇心が育つ。

だから君も今からいい。思いつきり自分の興味がある事を調べまくれ。なんでだろう？ どうしてだろう？という好奇心の叫びを無視するな。そこで面倒くさがるヤツは一生勉強なんてできない。一生誰かのマニュアルなしでは生きていけなくなるぞ！

**好奇心の叫びに素直に耳を傾けよう！小利口なマニュアル人間になるな！**

**大人になっても赤ん坊の頃の無限の好奇心を失わない事が勉強を楽しくするコツだ。**

## 5・勉強のメカニズム

赤ちゃんから子どもまで、どうやって勉強をしてきたのかを見てきた。人が何かを知るのは躰によって強制的に行われるか、好奇心によって自分が体験したことを疑問に思っただけだった。

躰は強制的に教えられるから最初のうちは効果を發揮するけど、成長していくにつれてそれはほとんど機能しなくなる。度を越えた躰は一人の人間の「知りたい」という欲求を殺してしまうことさえある。

逆に好奇心は最初のうちは危なっかしくて見ていられないけど、失敗しながら学んだ経験はいつか蓄積されて使える手段に発達していく。

どちらの方法も結論は変わらない。「知識」を得る事だ。でも、やる時期、やり方は大きく異なるから、同じ勉強でも注意して行う事が必要だ。

躰型の勉強、つまり親や先生に「勉強しなさい！」と言われて渋々やる勉強は、必要性を感じてやるものだ。「一流の野球選手になるためにはまず体力が必要だ」と言われれば毎日マラソンをするだろう。「アイドルになるには笑顔が大事だ」と言われれば無理矢理にでも笑う

だろう。どんな勉強でも「基礎」の部分はある。それは必要性を感じているからこそ努力できるものだ。この勉強はコツコツ続けてこそ成果が現れる、基礎体力のようなものなのではつきりって面白くない（泣）でも、必要ならばやるしかない。やるなら素直にひたむきにやる。それが躑型の勉強のやり方だ。

逆に好奇心型の勉強は好きなもの、興味のあるものから入るから面白い。知りたいたいというパワーがあるから、自分でどんどん進めることができる。でもそれは「きっかけ」にはなっても、それだけで完成するものではない。知れば知るほど奥は深くなっていく。自分だけでそれを勉強しようと思うと途方もない時間がかかってしまう。だからどこかで基礎体力を手に入れなければならない時が来る。その時は観念してコツコツ基礎を勉強しよう。

躑型も好奇心型も「知識をアンキする」のが目標ではない。「知識を手に入れる」ことが目標だ。つまり、覚えていても使えなければ意味がないから、勉強するならせめてその知識を自分で説明できるまでに磨き上げよう。僕はポケモン世代からは外れているから（泣）ポケモンと言えばピカチュウ位しか知らない。（最近はやアスとかルギア位なら知ってるが）僕の生徒でポケモン好きな子達は、熱くポケモンについて語る。

「ピカチュウは雷で攻撃するモンスターなんだよ。ピチユウからピカチュウに進化してライ

チューになるんだ。」

僕はこう返す。

「へえ、そつか。じゃあ雷だから植物系や動物形のモンスターには効くんだね。でも大地形のモンスターには効かないんだろう？」

生徒は驚いた顔でこう言う。

「すごいじゃん先生、ポケモンやつてるの？」

「ちがうよ。雷って電気だから、動物は感電したらビリビリってなるし、植物は火が付いて燃えてしまうだろ。でも地面に雷が落ちても絶縁体だから電気は通さないじゃん。ポケモンもちゃんと理科の勉強なんだね。」

こんな会話があるかないかで、その子の勉強の仕方が全然違う。きっかけがポケモンであってもいい。それを理科という基礎体力に結びつける人がいれば、もともっと知識は増える。

だからそのためには、ちゃんと2つの勉強の違いと特徴を頭に置いてやったほうがいい。好奇心でやる時は、本気で楽しんで、もともと知ろうと思う事。そしてその後で必ずちゃんと基礎知識を入れておく事。驛型でやるときは「やる意味」を納得してやる事。辛くても苦しくても、その先にある楽しさが見えるまで頑張り続ける事。それが大事な事だ。



そしてどちらもやる時には必ず「なぜ？」を納得する事が大事だ。なぜ？に対する答えのない勉強は単なるアンキになってしまう。

好奇心に溢れる発展途上国の子ども達。彼らは厳しい躰があるわけではないので野を駆けまわり、山を冒険して遊んでいる。でも、せっかくのきっかけもそれを勉強にまで高めてくれる教育環境がないから、結局遊びで終わってしまう。

反対に日本や韓国の子どもは受験が過熱し、小さい頃から塾で知識を詰め込まれる。知っている知識は半端ではないのだが、「勉強が嫌い」と言い、何かを知ってもワクワクしなくなってしまう。

こうして考えると、勉強に必要なのは好奇心による興味関心と、躰による厚い基礎知識だということが分かる。どちらが欠けても不十分だ。君は両方そろっているかな？

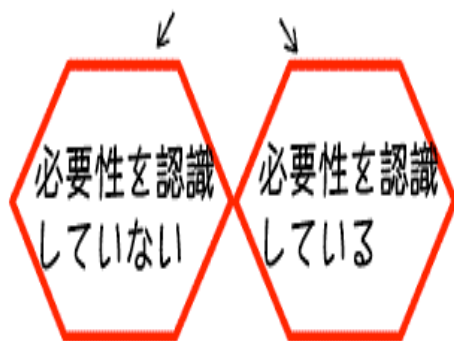
**勉強に必要なのは好奇心による興味・関心と強制力による躰だ。その二つの勉強を通して、人は豊富で深い知識を手に**

入れる事ができる！

# 躰

(強制力による勉強)

教えられること  
からSTART



やる気  
にならない



なぜ?を  
納得して  
いない

単なる  
アンキ



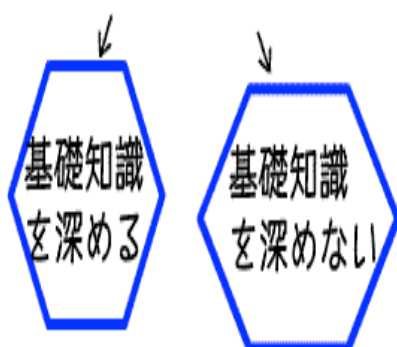
なぜ?を  
納得する

知識の習得

# 好奇心

(体験による勉強)

興味・関心  
からSTART



基礎知識  
を深める

なぜ?を  
納得して  
いない

単なる  
アンキ

基礎知識  
を深めない

一時の楽し  
さで終わる

## 6. 必要な失敗

失敗は誰しも嫌なもの。失敗して怒られた経験はあるかい？

僕はメチャクチャたくさんあるよ（笑）テレビに磁石を付けてはいけません、って書いてあったから「何でだろう？」ってやって試してみた。そしたら画面が真っ黒になっちゃって磁石のとこだけ画面が映らなくなっちゃったんだ（泣）他にも小学校の頃、理科の授業で使った虫眼鏡で休み時間に友達とへちまに火をつけて先生にぶっ飛ばされたりもした（泣）そんな失敗はいくらでもある。

人は皆、好奇心を持っている。何でもやってみたいって仕方ない。でも思うようにいかない。好きな事を全部できるとは限らない。だからウズウズしている。

子どもはそんな好奇心のカタマリだ。大人のやる事を何でも真似ようとする。話し方から仕事まで本当に何でも。ウチの娘なんて2歳児のくせに「車、運転するの」って言い張るし（オイオイ）、僕がパソコンで原稿を書いていると「わたしもやる！」ってキーボードをバシバシ叩くから、全然仕事にならない（泣）。怒ってもダメ、説明してもダメ。そこで使っていないキーボードを横に並べて、娘と「一緒に」仕事をするようになった。



娘の「オシゴト」で、  
左が僕の仕事」。子ども  
右は子供扱いされるのを嫌  
がる。子供なのに(泣)

さすがに車は運転させないけど、ある程度やりたい様にやらせてみて、失敗から学ばせるのも大事な勉強だ。やってみて、失敗して、納得して（観念して）、子ども達は大人に教えてもらおう事を知る。大人だって同じ失敗をずっと前に経験済みなんだ。大人も子どもの時、同じように失敗から勉強してきた。みんな失敗だらけの子どもだったんだ（笑）。

子どもは大人になろうとする。それはどの生物も一緒。たくさん食べ、栄養を摂って、体を大きくしようとするし、一人前に何でも自分で行えるようにしていく。そのために何度も挑戦して失敗するのは大事な過程なんだ。そんな子どもの大人への挑戦を「遊び」と言う。

ライオンの子どもは、じゃれ合ったりふざけ合ったりしながら「生き方」を勉強する。友達や兄弟を追いかけてかみ合ったりすることが、将来獲物を追いかけて捕まえることにつながっているんだ。もちろん遊んでいるだけでできるようにならないから、大きくなるにつれて大人の狩りのやり方を傍で見ながら勉強して一人前の大人になっていくんだけど、その時には「遊び」の経験が大きく生きている。

人間の子ども達も同じ。彼らは遊びだからといって決して手を抜いたりはいしない。遊びで

も負けたら泣くし、本気で悔しがる。逆に大人がナメてかかっていくとやられて痛い目にあう。子どもは本気で遊びながら本番の勝負の練習をしている。つまり遊びとは「失敗が許される真剣勝負」の事なんだ。

最近大学生達が会社を起こしたという話をよく聞く。「学生がやってる事なんて遊びだ」と大人は言うけど、結構面白い事をやっている人達もいる。マイクロソフトのビル・ゲイツやソフトバンクの孫正義は学生の頃に会社を立ち上げ、今その会社は世界を股に駆ける大会社に成長している。学生はまだ自分の力で生きてはいない。親に学費を出してもらい、生活費を出してもらい、せいぜいアルバイトして自分のお小遣いを稼いでいる位だ。しかし社会人になってからはそうはいかない。職がなければ生活できないという現実が待っている。起業するためには一度勤めている会社を辞めて、ゼロからスタートしなければならぬ。もし失敗したら元の会社には戻れない。最悪働く仕事もみつからなくなってしまうかもしれない。社会人はそんな覚悟を承知の上で勝負をしていかなければならない。

でも、学生なら起業して失敗しても、また学生に戻れる。(もしくは大学の授業の一環として起業体験することもある) そうすれば新卒として就職活動をして、企業に勤めることもできる。もちろん成功すれば、そのまま仕事にしてしまうのもいいだろう。社会人になって

しまったらそう簡単に失敗はできない。だから「失敗できる」環境でやれるというのは、ものすごくうらやましいことなんだ。たとえ失敗しても、その失敗から学ぶものは多く、とても勉強になる。僕が思うに学生というのは最高の「遊び」の場だ。本気で遊んで働いてみて、失敗したらまた次の遊びに走ってみる。そうやって一つ一つ大事な経験をしていくのが学生なんだと思う。（だから僕は大学に四回も行ってしまっているのかもね）

だからもつと思いつきり遊ぼう！遊びながら勉強しよう！

こんなことを言うと、僕がすごくオジサン臭くなってしまいそうだが、敢えて言おう。

「最近の若者には元気がない。」

授業中は勉強のできる子が、用意された答えを発表する場になり、放課後は用意されたエンディングをたどるだけのゲームに没頭する。人付き合いもオンラインで、ネット上で大人顔負けの社交辞令を交わし、気に入らなくなったらすぐに削除。どこでも失敗しない。失敗するくらいなら勝負しない。何かしたいことはあるの？と聞かれれば「別に無い」と言い、せっかく興味を持って「どうせ僕には（私には）やっても無理だし」と諦める。失敗する事がかつこ悪いというイメージが付いてしまった今の世の中、人が皆、無難な道を希望してどんどん弱ちちくなっている。

だから僕は言いたい。

「むしろ失敗しようぜ！」

僕の授業では生徒にバシバシ指名して答えを言わせる。間違えたからって他の人の答えなんか聞かない。答えが出るまで付き合う。その問題は当てられた人が責任を持って答えを出す、それが勉強だと僕は思ってる。その代わり、もし間違えても絶対に怒らない。間違えることを恐れてしまつては学ぶ意欲を奪ってしまう。だから生徒が間違える事なんて僕にとつては「漫才のボケ」くらいだと思ってる。

「博多明太子で有名な九州の県は？」

「福島県！」

「オイオイ（笑）そこは東北だ。明太子も凍っちゃうぜ。でも惜しい！福は合ってる。福岡かもう一回言ってみ。」

「えっと、じゃあ福井県？」

「惜しいなお前（笑）福井県だったら北陸だ。原子力発電所が多くてゴジラによく襲われるところだろ。もう一回チャンスをやろう。福〇県だ？」

「じゃあ福岡県。」



「正解！」

こんなやりとりが一人一人と交わされ、面白い授業が展開する。僕はもちろん教科書の答えは全部知ってるから（一応先生だし笑）、正解ばかり答えられてもつまらない。思う存分間違えてもらって、何と勘違いしたのか？どう考えて間違えたのか？それをちゃんと教えてあげたいんだ。だから指名された人だけじゃなく、他の人にとつても大事な勉強になる。「それくらい知ってるよ」とうっかりしていると、全然違う質問が飛んでくるぞ（笑）。

「じゃあお前、福岡県と言えば他に何がある？」

「え？」

それじゃあダメだ。福岡県と言えば博多ラーメンだろ。（笑）九州は豚骨ラーメンが主流、北海道札幌は味噌ラーメン、函館は塩ラーメンだ。だって九州は畜産が盛んで鹿児島を始め豚の生産が多い。だから九州はそれを生かした豚骨だ。北海道は大豆の生産が日本一だ。だからその大豆を使って味噌を作る。函館は漁業が盛んで魚市場があるから、塩をベースにしたラーメンができた。

福岡県は歴史でも登場するぞ。江戸時代に志賀島というところで金印が発見された。甚兵衛という農民が田を耕していたら偶然見つけたんだって。他には八幡製鉄所が有名な。日

清戦争の賠償金で製鉄所を作って日本は産業革命を起こしたんだ。今は衰えてきているけど、北九州工業地帯は四大工業地帯になっているぞ。

これ位の話はしてもらいたい。きつと毎日何時間も教科書や参考書と勉強してたくさんの事を覚えているんだろ？それだけたくさん知ったのに、解答だけ答えて、はい終わりってそりやないだろう（笑）

合否を決めるテストで間違えるのをためらうならまだしも、授業で間違えないようにするなんて言語道断、一体何しに授業に来てるんだ。授業は答えの確認の場じゃない。先生から幅広い世界の知識を教わり、自分の考え方を確立していく場だ。何でその答えになるのか、どうして自分の考えじゃダメなのか、とことん教わってきな。そのためには間違ってもいいから自分の「考え」を発表するんだ。僕はこう思う、という意見を示さなければいけない。そしてそのためにはもちろん自分でも勉強しておかなければならないんだ。

勉強を始めるにはどうすればいいか？という質問の答えは、まずは教科書を読んで意味の分からない所に線を引くこと。自分が「分からない」ということを自覚することなんだ。もし教科書を開いて全部だったら、本当に全部だったらそれでもいい。（僕が全部教えてやるから。）分からない部分を見つけたら生徒一人一人が本気でやらなければならない勉強だ。

そして授業に出る。今度は先生がそんな生徒の「分からない」を徹底的に潰してくれる。手を変え品を変え、君が分かるまで説明してくれる。必要とあれば実際に見学に行ったり、実験もやってくれる。これが勉強の正しいやり方だ。

もし君が勉強が分からないと言うなら、半分は君がちゃんとどこが分からないか自覚していないからだ。適当に教科書を眺めて「全部分からない。」というのは「面倒くさい。」と言っているのと変わらない。ちゃんとここまでは分かる、ここからが分からないという場所を見つけるんだ。

それでも君が勉強が分からないのは先生の責任だ。君のせいじゃない。生徒にちゃんと理解させる、分からない所を解決させるために先生はいる。それをやらない人は先生ではない。

もちろん答えの出ない問題もある、そしたら一緒に考えると言う答えを出すのも先生の仕事だ。先生だつて失敗する。僕も授業中、「ゴメンこれわかんないや。お前だつたらどう思う？ どう考える？」と生徒に答えを求めることはよくある。

生徒も先生も授業と言う遊びの場で、思いっきり失敗しながら本当の知識を吸収し、いつか社会という本番でその知識を使って生きていく。これが本当の勉強だと僕は思う。だから自分が成長するために必要な失敗は買ってでもしなさい（笑）。まあ買わなくてもいいけど、

「失敗を恐れずに」挑戦しなさい。それが必要な失敗だ。

聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥、と言うことわざがある。みんな何も知らない、何も分らないところから生まれてきた。だから失敗の無い人生なんてありえないし、全然かっこよくない。賢い人は失敗から多くを学ぶ。そして本当の勝負では失敗しない。失敗の仕方を知らない人はいつか大きな失敗をしてしまうだろう。僕は君にそんな人になってほしくない。

**失敗は、できるうちにしておこう！くだらないプライドなんか捨ててしまえ。いつか失敗できない日が来る。その日のためにたくさん失敗から学べ！**

## 7. 不要な失敗

僕は前項で失敗しろと言ったが、今回はまったく逆の事を言う。(笑)  
「失敗するな！」

失敗には実は2種類あるんだ。一つは既に説明した勉強するために必要な失敗、僕が「買っ  
てでもしろ」と言った方の失敗だ。そしてもうひとつは不要な失敗。今回はこの不要な失敗  
について説明しよう。

人類は500万年とも600万年とも言われる程大昔に誕生した。それ以来メチャクチャ  
たくさんの人たちが色々な失敗を繰り返してきた。危険な場所に足を踏み入れて帰ってこな  
かった人が大勢いた。毒を持つ生物を食べて命を落とした人が大勢いた。熊やライオンなど  
の猛獣に食べられた人がいた。空を飛ばうとして失敗し、命を落とした人がいた。深く潜ろ  
うとして命を落とした人がいた。宇宙を目指したロケットが爆発し、亡くなった人がいた。  
僕らの祖先は数多くの失敗をしてきた。みんな大きな好奇心を持ち、失敗を恐れず果敢に挑  
戦していった結果、遭えなく命を落とした。

彼らの死は、彼らの命は無駄だったのか？僕はそうは思わない。彼らの犠牲があつたおかげ

げで今の僕達は同じ失敗を繰り返さないで済む。地球上のあらゆる部分に人間が探検した結果、地球の地図が作成された。毒でやられた人達の経験が安全な食材を生んだ。猛獣達の犠牲になった人達のおかげで、その生態や生存地域を勉強できた。空を飛ぶことができた。より深くまで探索する事ができた。地球を飛び越え、宇宙まで知る事ができた。全て人々の失敗の結果だ。僕達はその恩恵を受けている。彼らの失敗は感謝すべき偉大な行為だ。

「失敗から学ぶ」というのは何も自分がしてしまった失敗からだけではない。他人の失敗を教訓にすれば、同じ過ちを繰り返さないで済むんだ。

僕たち人間はたくさんの失敗をしてきた。一人の人間では到底しきれないほどの失敗を。その失敗を有効に活用するために歴史という学問がある。先人の失敗を学び、繰り返さないように僕達は過去を勉強するんだ。でも、歴史が単なる暗記科目になってしまえば、そんな本質を知る事も無く人々は失敗を忘れ、また同じ過ちを繰り返してしまう。だから人類はいつの時代も争いを繰り返す。ある地域では貧困に苦しむ人で溢れ、ある地域では独裁者の前に服従を余儀なくされている。だからちゃんと勉強する必要があるんだ。

日本人の平均寿命は男女共に世界一を誇る。(2008年度男性79.29歳、女性86.05歳)それは「おばあちゃん」の役割と大いに関係していると言う説がある。(おばあさん

仮説）日本では昔から多世帯家族（おじいちゃんおばあちゃん家族、お父さんお母さん家族、そして自分の家族が一緒に暮らす）が普通だった。いまでこそ核家族化と言われ一つの家族が当たり前になってしまったが、昔は子育てはおばあちゃんの助けを借りて行っていた。おばあちゃんは自分が子どもを育てた時の経験を思い出して、未然に失敗を予防する。だから子どもの危険が減り、子育ての成功率を上げることができるといふものだ。子どもを死に追いやる失敗はもちろん「不要な失敗」だ。それを未然に防ぐのは一度経験した人達の知恵なんだね。

最初に何かをやるうという人はあれこれ迷って試行錯誤の上に進めるからものすごく時間がかかる。成功にたどりつけないかもしれない。でも、次にやる人は前にやった人の失敗を踏まえて、同じ失敗をしないで済むから時間が短縮できる。前の人が成功していたら、その成功を真似る事だってできるんだ。説明書ナシでプラモデルを組み立てるってなったらめちゃくちゃ難しいだろ？それはまるでレシピなしで料理を作るようなものだ。何事も最初にやるのは難しいんだ。

だから君が何かを学ぼうと思ったら、まずはその歴史を勉強する事をオススメする。その分野で昔の人はどんな事に挑戦し、どんな失敗をしてきたのかを知っておこう。例えば野球

をやる人はベーブルースから王貞治、長嶋茂雄といった野球史に残る選手達から野球を学んだ。さらに、初めてメジャーの道を開いた野茂英雄、イチローや松井秀喜らの偉業を知るんだ。彼らが君と同じ歳の頃、どんな事を考えてどんな練習をしていたか、どんな事につまづき、どうやって乗り越えてきたか、君は歴史を勉強する事でその失敗を予め知る事ができ、名選手達よりも楽に乗り越える事ができる。ちよつとずるいようだけど、それが後の時代に生まれて来た者の「特権」だ。

僕は18歳で塾の先生を始め、「中村先生！」と呼ばれて14年が経つ。僕は授業の中で、自分が学生時代に何時間も教科書や参考書とにらめっこして、色々あれこれ考えながら理解したことを、ほんの数分で生徒に説明している。例えば僕が2年かけて理解した英文法の仮定法を生徒達は十分程度で理解してしまう。僕が3年かけて理解した数列や微分積分を数時間でものにしていく。「僕は何年もかかったのに(泣)こいつら天才か？」と思うほど彼らは早く大事な事を吸収していく。これこそまさに他人の失敗から学んでいるということに他ならない。僕の生徒達は僕が代わりに失敗してくれた事によって、自分達は失敗なんかしないで時間を短縮して要点のみを吸収することができるんだ。でもそんな僕だってニュートンが一生涯をかけて生み出した重力の法則や、メンデルさんが何十年もかけて実験をして発見し



た遺伝の法則を、教科書一冊で数時間のうちにものにしてしまったし、46億年も続く地球の歴史をわずか4、5年で把握してしまった。

人類はまるでリレーのように先人から後世の人へと失敗のバトンを渡している。

「俺はこれで失敗したから、お前は同じ失敗はするなよ」

そう言うて大人は子どもに生き方を教えていく。何百万年も続く、そんな人類の経験の蓄積の上に僕らはいる。そして僕らが起こす失敗もまた後世に受け継がれ、後の時代の人たちはもつともつと賢く生きていくだろうと予想できる。あんまり産業の開発ばかりやっている地球環境はボロボロになってしまっぞ。そんな失敗を経験した今の大人世代は、科学の力で「地球に優しい」生き方を提案するようになった。核兵器の恐怖を経験した人々が核の廃絶を訴え、核兵器削減へと動いている。人間は限りなく愚かな生き物で、何度も何度も失敗してしまう。でも、人間だけが過去に学ぶことができる生物なんだ。そこに未来への希望がある。

「俺はこれで失敗したから、お前は同じ失敗はするなよ」

君にはその声が聞こえるかい？その言葉が信じられなかったり、君に譲れない信念がある時は、堂々と失敗に向かって突き進んでもいい。（それは君にとって「必要な失敗」なのだか

ら)でも、全部やってみるには僕ら一人の人生はあまりにも短い。だから自分より長く生きている年寄りの言う事もたまには聞いてみるもんだ。何でも無難な人生はつまらないけど、先人たちの失敗を全部繰り返していたら、命がいくつあっても足りない。(笑) 必要な失敗と不要な失敗を見極めながら勉強していこう。

君が今見ているもの、学ぼうとしているものは「必要な失敗」なのか？それとも「不要な失敗」なのか？

僕の経験から言うと「必要な失敗」は個人的な事、自分オリジナルなものが多い。人とうやうやって付き合うのか、どんな夢に向かってどう努力するか、こういう事は「自分で」やってみないとわからないと思う。どんなに恋愛マニュアルを読んで他人の失敗談を踏まえたからといって、誰とでも付き合えるわけではないし、努力もしないで何かの道で成功する事は難しい。自分にしかできないものは自分自身が挑戦してみても、失敗し、その体験を活かして成長していくものだ。そんな体験は買ってでもしよう。それが「必要な失敗」だ。

一方、「不要な失敗」は人間全体に関わるものや、まだ君が自分オリジナルに至っていない場合に勉強するときが多い。人間社会は個人の思惑では動かないから(歴史がそれを証明している)、今までの失敗データをより多く集めて、同じ失敗を繰り返さないようにするのが最

善だろう。また、君が自分のやり方で生きていく道を歩むまでは、同じようにその道を歩んできた人達の働きっぷりを勉強していく事が、君が一人前になるための近道になるだろう。先生に付いて勉強したり、師匠に弟子入りしたりして、道を学んでいく。その道を究めた人から「不要な失敗」を学び、いつか師匠と同じレベルになったら、今度は君自身のやり方で「必要な失敗」を経験していけばいい。

勉強すると言う事は、他人の失敗から学び、自分で失敗してみても学ぶ事なのだ。

**先人たちは命がけで失敗し、多くの人の犠牲の上に「今」が作られた。人の失敗から学べ！同じ失敗を自分にするな！**

**君がする失敗は君にしか挑戦できない「必要な失敗」だけだ。**

## 8. 土俵はひょうり

僕は毎年1000人近くの生徒と出会う。今まで高校の教師、予備校の講師、家庭教師、そして地元のボランティア活動などを通じて出会った生徒は1000人以上にも上る。生徒たちの年齢層も小学生、中学生、高校生、浪人生とバラバラだ。中には自分よりも年上の四十、五十代の生徒もいた。

また家庭環境も生徒ごとにそれぞれ大きく違う。家庭教師や塾など学校の勉強以外にも勉強する環境がある家もあれば、実家の山梨から上京し、居酒屋でアルバイトをしながら送りももらわず受験勉強している生徒もいる。両親共に大病院の勤務医をしている家庭の小学生もいれば、過去に少年院に入所して以来親に縁を切られたと16歳にして一人で生活しながら高卒認定を目指す子もいる。毎月塾と家庭教師で何十万も払っている家もある。それも立派なお屋敷に住み、それくらい大したことはないと言うような家もあれば、子どもの受験のためなら、と積み立ててきた定期を解約して一年間だけ授業を受ける家もある。子どもの教育費のためにお母さんがパートに出ている家も珍しくない。

世の中に色々な人間がいるように一口に「生徒」と言ってもその姿は実に様々だ。僕が住

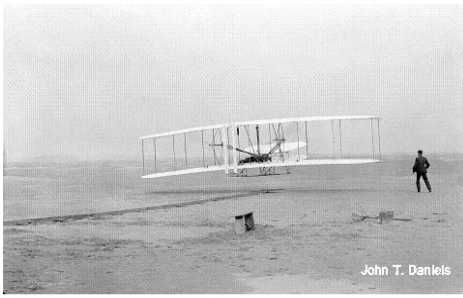
むこの町にも色んな人がいて、色んな状況で、環境で、学んでいる人がいる。この日本と言う国にも、いや、世界の至る所に、学んでいる人がいる。環境はみんな違う。国も違う、言葉も違う、性別だって、夢だって、宗教だって、学び方だって、財産だって、地位だって、もうなんもかんもが違うんだ。でも、そんなみんなに一つの共通点がある。

それは「勉強する」ということ。どんなにお金持ちでも、どんなに貧乏でも、どんなにくさんの教育ツール（塾や家庭教師、通信教材に参考書など）を持っていても、学校の教科書しかもっていないなくても、どの子も「勉強する」と言うことに同じなんだ。

それってすごくいいことだと思わないか？色んな人がいて、決して平等とは言えない条件にあるみんなが、「勉強」という同じフィールドで勝負する。もちろん同じフィールドだからと言っても、イチローにバッティングを教えてもらうのと、学校の先輩に教えてもらうのとでは大分効果が違う。そのやり方での有利不利はある。でも、イチローに教えてもらった子も、先輩に教えてもらった子も、世界の片隅で道具も満足に手に入らない所で野球をしている子だって、その子達が「野球」という土俵で勝負するのには変わりがない。

ねえ知ってる？野球の世界ではキューバなどカリブ海の国が強かったり、サッカーではブラジルやアルゼンチンなど南米の国が強かったりするんだ。英才教育を受けた先進国を経済





1903年12月17日、ライト兄弟は人類で初めて飛行機を使って空を飛んだ。

的には恵まれていない国が打ち破っていく。土俵が同じだからそういうことが起こる。やはり方は大きな要素ではあるけど、それだけで勝負は決まらない。

野口英世は貧しい農民の出身だったけれど、猛勉強の末、医師免許を取得し黄熱病の研究によって歴史に名を残した。

ウィルバー・ライトとオーヴィル・ライトのライト兄弟は科学者や研究者ではなく、自転車屋を営みながら1903年、人類初の有人動力飛行に成功した。兄弟は仕事が終わった後の自転車屋で必死に勉強した。何度も何度も失敗を重ね、そしてとうとう飛行機を完成させ、空を飛んだんだ！

どんな状況でも学ぶことはできる。日本の幕末、松下村塾を開いて多くの志士を育てた吉田松陰は、安政の大獄で逮捕されてもその獄中で囚人たちを相手に学問をしていた。

「知って死ぬのと知らないで死ぬとは違う」

そう言って吉田松陰は処刑された。どんな状況でも学ぶことはできる。生きる道を探すことは出来る。

そして学んだことを生かせば、野口英世やライト兄弟のように世の中を変え

ていくことができるんだ。勉強するという土俵は、今考えられる中で一番誰でも参加できて、一番逆転サヨナラホームランが可能な、つまりフェア（公平）な土俵だと僕は思う。だから僕はこの土俵で勝負してきた。君にもぜひこの土俵で勝負していつてもらいたい。

**勉強という土俵で、最もフェア（公平）な勝負をしよう！**

**LOVE OTHERSは誰にでもできる勝負だから。**

## 9. 頭の良さ

頭がいいってどういうことだろう？勉強すれば頭がよくなる、とはよく言われるけど、毎日勉強ばかりしている僕は頭がいいのか？そんなことはないだろう（笑）学校ではテストの点数をたくさん取れるヤツが頭がいい人だった。社会に出るからは偏差値の高い大学を出た

人が頭がいい人だった。確かにテストが出来る人、偏差値の高い大学を出た人に頭がいい人もいた。でも反対に、何でそんなに勉強してきたはずなのにこんな簡単なことも分からないんだらう、コイツは馬鹿じゃないか？と言うような人もいた。頭がいいってなんだらう？

今の日本では頭の良さを量る基準は「テスト」になっている。テストによって成績が決まり、テストによって入れる学校が決まる。そのテストとは出された問題に用意された答えを覚えて書いていくものだ。そんなもので人が判断される。底辺×高さ÷2、覚えた公式をうまく使えた人は頭がいい、ナクヨウぐいす平安京、イクニつころう鎌倉幕府、年号を覚えた人は頭がいい、塾や学校ではそんな価値観が存在している。

実際に僕が会おう生徒達にもそんな子が多くいる。小さい頃から塾に通う子供達の多くが偏差値基準で学校を決めている。その学校で何を学べるかではなく、とりあえず偏差値が高いところだったら大丈夫だらうと言ういい加減な理由のために、何年もの時間をかけて本気で頑張っている。(それはむしろ頭が悪いやり方では？)

また中学生や高校生になると点数が取れる人と取れない人の差が大きく開き、「自分はバカだから」と言う生徒が出てくる。そんな生徒のほとんどは入試科目の得点が取れない事理由に自分の能力を否定してしまっている。そうかと思えば、いつも高い点数を取る「優等



生」のイメージが定着し、それを壊せなくて心の病気になってしまった子もいた。その子は点数が下がる事におびえ、やってもやっても成績が上がらない事にいらだっていた。常に学年順位を気にして点数に固執し、順位だけに関心を持っていた。そして疲れ果てたその子は、とうとう学校に行けなくなってしまうたそうだ。

僕は今まで、出会って来た生徒達にずっと言い続けてきたことがある。

「人の価値は、どこの学校に行ったかとかどれだけテストで点数取れたかじゃない。容れ物は関係ないんだ。それよりもそこで何をしたかで人の価値は変わる。メチャクチャ誰かのために頑張ったヤツはカッコイイし、自分の事だけに頑張ったヤツはかっこ悪い。どれだけテストでいい点取ったって、一人の人間にも感謝されないクソみたいなヤツもいるじゃん。それよか自分が勉強した事をフル活用して一人でも多くの人を助けてるヤツの方が何倍もかっこいいぜ。」

誰かが作ったテストで頭の良さを量れるなら、俺がいくらでも頭をよくしてあげるよ。偏差値なんていくらでもあげてやる。その代わり偏差値があがったら、そんな数字の無意味さに気付けよな。絶対にそんなもんで人を判断しちゃダメだぞ！」

僕の生徒は1年間で偏差値を10も20も上げる。受験を控えた小6の夏休み、偏差値が50に満たなかった子が偏差値65の中学に合格した。ずっと勉強していなかった20歳の浪人生が1年間の勉強で63の大学に合格した。そんな例が山ほどある。

彼らはそれまで偏差値の高い人を「頭のいい人」、自分の事を「バカ」だと思っていた。でも、僕と授業を始めて、得点や偏差値が急激に上がっていく。今まで手が届かなかった、頭がいい人達の点数に自分もたどりついた時、彼らはどんな事を思うんだろう。だから僕は聞くんだ。

「お前、頭良くなったのか？」  
生徒達は言う。

「いや、頭は変わらないかな（笑）でも勉強が好きにはなったよ。」

勉強という道を志して、日々理解を深めていけば、勉強した事を尋ねる試験問題なんて出て当たり前だ。それは頭のいい人が解ける問題ではなく、「ちゃんと勉強した人」が解ける問題だ。だから僕は授業でちゃんと勉強させて問題を解かせた。それだけだ。

世の中には簡単には答えが出ない問題が山ほどある。

- ・世界を平和にするにはどうしたらいいだろうか？
  - ・どうやったら世界の貧しい国を救えるのだろうか？
  - ・好きなあの子と付き合うにはどうしたらいいだろうか？
  - ・医者に自分の病気は治らないと言われた。これからどうやって生きていけばいいのか？
  - ・子どもが心を閉ざして部屋から出なくなってしまった。どうしたらいいんですか？
- いろいろな問題がある。そこに答えは用意されていない。だから人々は考える。今まで学んできた事を思い出し、組み合わせる。そうして解決策を見つけていく。でもそれが答えかどうかは分からない。それでも何度も試しながら、失敗しながら「それが答えだ！」と信じていく。そうやって積み重ねた完成度の高いやり方を、後から生まれた人が「答え」だと言って覚えていく。答えを覚えているのは簡単な事だ。それを頭がいいとは言わない。
- 頭がいいのは答えを覚えている人じゃない。答を生み出す人だ。その答えを自分で生み出すために、僕は解決済みの答を覚えていく。勉強してテストの点数を取ると言う事は、頭が良くなる段階の入り口に立ったに過ぎない。その階段を登って初めて頭が良くなるんだ。
- 君が頭が良くなりたと思うなら、学校で学んだ事を何かに使ってみよう。英語を習って外国人に話しかけてみよう。理科の知識を活かして天気を予測しよう、月の満ち欠けを予想

しよう。歴史の流れから将来の歴史を想像しよう。たくさん読んだ国語の知識を活かして自分で文章を書いてみよう。学んだ教科を点数のためではなく、ツール（道具）として考えられた時に、君の頭の良さは開化する。その発想にならない人はどんなに100点満点を取ってもずっと「お馬鹿さん」だ。

**頭がいい人は学んだ知識を「使える」人だ。点数だけ取って満足しているお馬鹿さんになるな！**

10. 勉強のメカニズムのまとめ　く　愛の花を咲かせようく

この章では勉強のメカニズムについて説明してきた。勉強とは単なる知識の暗記ではなく、将来生きていく「道」を切り開くための大事なツール（道具）だった。

そのツールは大きく分けると2つ。一つは生物として生きていくために必要なもの。呼吸や排泄から、愛情の受け方与え方まで、人間社会で生きていく基本となる事は大人の躰によつて勉強していくんだったね。

そしてもう一つ、君が君として生きていくために必要な「道」、その道を発見し、究めていくために必要なツールは自分で勉強しなければならなかった。そこでは先人たちの失敗を踏まえて基礎を磨き、自らも失敗を恐れず「遊び」ながら学んでいくんだったね。

それが出来た人は、作られたレールの上を歩むのではなく、未知の世界に分け入って、道を自分の力で切り開いていける人になる。それが頭のいい人だった。

勉強と言うメカニズムは単純にそれだけの事だ。最初にも言ったように、勉強とは生きる手段を知る事だ。だから勉強が「生きる」事とかけ離れてはいけない。学んだ事が役に立たない、なんて事態はあつてはいけないんだ。学んだ事はツールとして役に立てよう。それを道具に他人にLOVE OTHERSを与えよう。それが生きる道につながる。

もう「勉強しない」なんて考えは君の頭にはないよね？（笑）

勉強は自分のため、自分の力で生きていくためにするもんだ。

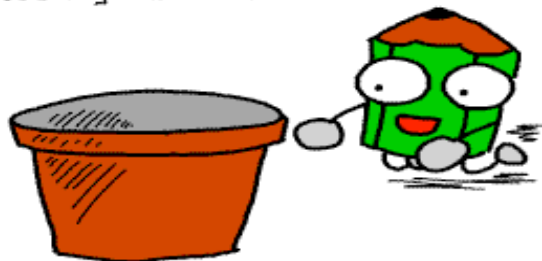
やらされてやるもんでも、無理矢理覚えるもんでもない。

高価じゃなくてもいいから、自分オリジナルの鉢植えに、自分

オリジナルの土を入れ、自分の種を蒔こう。

その種がLOVE OTHERSの花を咲かせた時、勉強してきた事が初めて報われるんだ。

まずは土台をつくろう!  
◦ 躰にお2「人」の基本を身に付けよう



勉強の土をまこう!  
◦ 広く世の中を知り、自分の「種」に適した土壌をつくらう。



種をまき、水をあげよう!  
◦ 自分自身の「道」を見つけ、その道を磨こう。



Love othersの花を咲かせよう!  
◦ 自分の「道」を誰かのために役立った時、ずと勉強してきたことが報われる。

